

企業行動研究部会議事録（第 264 回）

日 時： 平成 30 年 8 月 6 日(月) 18:00-20:00

場 所： 中央大学駿河台記念館 3 階 350 号室

出席者： (15 名 上原、片方、勝田、河口、北川、栗栖、小松、西藤、佐久間、櫻井、佐藤、
出口、峰内、宮澤、銀山、敬称略)

1. 連絡事項：事務連絡（総会・研究発表大会について）

勝田部会長による開会宣言に続き、今後の発表計画を事前にご提出いただくよう依頼された。

河口幹事より議事録とともに早めに確認を願いたい。

9 月については栗栖氏より、提出を予定との発言があった。

2. テーマ 1. 日経新聞 6 月の夕刊で連載された記事「くらしナビ プロムナード」について

報告：佐藤部会員

<発表骨子>

本件記事を取り上げたのは…今年は明治 150 年と言われていますが、「日本はこの 150 年を経て本当に、かわったのでしょうか？ 表面的には明治 150 年を経て近代化への脱皮・改革への道を進んでいるように見えるが、本質的な国民性、国民の行動・思考の原点は、「相変わらず、島国根性・仲間意識の共同体依存社会に安住しているのではないだろうか？」このような視点から我が身の近辺を見回してみると様々な疑念・懸念が見えてくる。

今回、日経新聞の夕刊連載記事を目の前にして、改めて別紙メモ提示して身近な身辺からの見直しを試みたい。

今回は日経新聞 6 月の夕刊記事 26 件を取り上げてみた。実は、この連載記事 26 件の挿絵が（フクロウと Coffee）であり、果たして各執筆者の関心・視点がどの様に展開されてくるのか…例えば文系/理系の出身などでどのように体现され発言されてくるのか？ 様々な視点・Diversity の相違点なども覗き見できるのではないかと期待があった。

特に、挿絵にフクロウが選ばれていることも新鮮であった。個人的な意見であるが日本ではフクロウが学問の神様（使徒）として取り上げられることはない。

世俗的に「幸運・金運」に通じるとしてお守り袋に収まっている。

能動的に学問の道を切り開くとか、古代アテネの通貨（ドラクマ）に登場し女神の使徒として活躍したというような伝承はない。

日本のフクロウは従順な金運、幸運な使徒としてのみ描かれている。果たして、日経新聞 6 月の夕刊の挿絵「フクロウと Coffee」は何を訴えようとしているのか……少しでも掘めたら……の思いもある。

別紙執筆者 26 件の記事から様々な視点から日本人社会の実態・体質が覗かれるが明治 150 年を迎えた我々の社会の基本体質・問題等も見事に覗き、指摘しているようにも思われる。

以上を「興味本位」で一覧表にメモしてみたが、会員の皆様はどの様な視点・ご意見などをお持ちなのであろうか？……

例えば文系と理系などの議論が改めて必要と感じ今回の報告を行った。問題提起と理解頂きたい。

※記事は省略

<意見交換>

- ・文系理系について書かれた山本氏の記事について、NHK スペシャルでの番組はすべて文系の人間に作らせるという原則がある。だから理系も文系もなく、理系・文系という発想はなくした方が良いと思う。
- ・自分の父親は数学者であったが、文系理系との切り分け発想はなかった。
- ・自分は昭和31年に興銀に入った、先ず理系はいなかった。銀行は文系の最たる世界であった。昭和52年、20年たった時、金融工学と称して理系の人が多く入るようになった。仙台支店勤務の折新たに配属された社員が東工大の組織工学の人間であった。話をすると常にどうしてですか？との質問が相次ぎ、世の中が変化したなど思った。
- ・役所は文系、理系を別に採用しているが、こうした切り分けは時代遅れではないのかと感じた。
- ・日立の歴代の社長は全て理系、東芝はそうではない。事業によってはそういう点が企業経営に影響しているのではないか。
- ・日立は理系で進めてきたが大変厳しい局面があった。そうした中で日立はずっと局面をじっくり打開したが、東芝は厳しさをごまかすために嘘をついたという点が違うだけ。
- ・結果から見たら理系が一本で進めて嘘のない経営をしたが、文系が入った方は嘘をつくことで会社をダメにしたともいえるのではないか。そういう事実についてどのように考えるか。
- ・最近理系の人々による嘘の連鎖（品質偽装等）が広がっているのではないか？その意味では文系が嘘をつきやすく理系は否とは言えない。
- ・したがって、最初に述べた通り、理系・文系と分けて語ることがナンセンスだと言っている。
- ・例えば米国の偉大な経営者と言われるスティーブ・ジョブズはここでいう分類なら文系
- ・欧米では、日本でのいわゆる文系の多くが法学部卒であることに違和感をもつ。具体的に言うと法学部を出て何故弁護士・法律家にならないのか？という疑問です。アメリカ人やカナダ人から見ると、彼らは人を評するとき、彼はリーガルマインドがあるとか、彼はエコノミックマインドがある、あるいは彼はアカウンティングマインドがあるという風に評する。
- ・学問の呼称で、例えばリベラルアーツには一般的には理系と言われるもの、芸術、論理学のようなものを包含した学問となっており、日本語には大変訳しにくいと言った現実がある。
- ・フクロウのお話があったが、佐藤氏のお話に合ったように、米国等では知恵・学問の神様と言われる。
- ・日本でも例えば鳩山邸には知恵の神様としてフクロウの像が飾られている。
- ・ミネルバ書房のミネルバもフクロウであり日本でも知恵の意味は広く認識されているのでは。
- ・日本では、MITを理系の大学と思っている人が多いですが、米国では理系などという発想はない。有名な経済学部、政治学科もあるし、特に力を入れているのが、右脳を鍛える、芸術や、音楽などの教育です。それは想像力を養うからです。それらはイノベーションに最も大事な教育だそうです。創造力のない人は理系とは言えないのではないのでしょうか。
- ・西周が理系・文系を分けたと言われるが、真意は良く理解できない。
- ・国立大学でも私立大学でも、現在は経営を担当する理事会と、教育研究を担当する教学とに分かれており、現在は教授会の権能はかつてと比べ大きくない。
- ・公務員制度にける技官という発想を変える必要があるのではないかと考えている。
- ・国家公務員試験の上級職にはどのような分類になっているのか？
- ・試験を通過すれば、学部云々は関係なしのはず。

- ・今回の報告は問題提起ととらえて頂ければよい。

以下略

3. テーマ2. 日大アメフト部第三者委員会最終報告に関連して 報告：勝田部会員

<資料>

- ・日本大学アメリカンフットボール部における反則行為に関する第3者委員会最終報告要旨
- ・学生ファーストの理念に立ち返って（日本大学理事長 田中英寿）
- ・今後の改革に向けて（日本大学学長 大塚吉兵衛）
- ・経営倫理 91号 特集：スポーツと倫理問題
 - 「スポーツの不祥事を予防するための危機管理」 佐久間健
 - 「スポーツ組織のコンプライアンス」 岩倉秀雄
 - 「スポーツとインテグリティー経営倫理の視点から」 村松邦子
 - 「スポーツにおける倫理の確立に求められるもの」 望月浩一郎
 - 「スポーツにおける勝利主義の危険性」 鈴木国博

<説明>

上記の資料に基き、勝田部会員より今回の第三者委員最終報告の要旨に基づき今回の事案の全体像と問題点また、これに関連して佐久間氏が編集委員長を行われて編集された、BERC 季刊誌「経営倫理」の特集スポーツと倫理問題の各氏のコメントを踏まえた説明が詳細に行われた。

以上

<意見交換>

- ・佐久間氏：3年ほど前から編集委員会に提案していたテーマであるが、今回ようやく編集委員の合意を得て特集を組んだ。このことをテーマとした理由は、企業とスポーツについても大変重要と考えスポーツと危機管理の観点で取り上げた。レスリング、相撲に関することが一つのテーマと考えていたが、偶然今回のアメフト、ボクシング問題が発生し、極めて良いタイミングとなった。マスコミ対策等に限らずスポーツの本質を踏まえて自身も記事を書いた。
- ・佐久間氏：スポーツ選手としてのやるべきことをきちんとやること教え、スポーツの理念をきちんと掲げている企業スポーツの中には不祥事が起こらないということを指摘した。
- ・佐久間氏：スポーツにおける倫理上の問題は、ドーピング、パワハラ、暴力の3つが最も大きく、これについてお金に関わることと理解している。
- ・プロスポーツでもサッカーは現在、非常にきちんと教育している。
- ・格闘技に問題が多いように感じるがなぜか？→昔の軍隊式スポーツの流れがあり抑制力が働くと戦意に影響するということもあるか。
- ・大学において教学という言葉が使われるが教学とはどういうことを言うか？
- ・経営を行う理事会側に対し、主として教育と学問を担当するものを教学と言ってる。職員でも理事会側に所属する職員と教学側に所属する職員もある。
- ・米国では体育は教育の一環となっているが、日本の大学ではスポーツ団体は任意の団体として存在するため、責任の一部不明確さがある。
- ・スポーツクラブという任意団体が大学をゆすぶるというのは大変奇異に感じる。
- ・スポーツ団体が任意団体であることは理解するが、例えばアメフトのチームは任意団体とは言えず、大学等に所属するのではないか。

- ・現在もスポーツ界でもセクハラが問題になっているが？
米国でも問題化している
- ・以前の概念では、学長と教授会が大学を運営すると理解していたが、・・・
- ・学位授与やカリキュラムは教授会の専任事項だが、現在の学校教育法では、教授会の主たる役割から、重要事項の審議がなくなった。
- ・今回の理事長のコメントには、「学生ファースト」というのがあるが、日大の理念等にその言葉はあるのか？
- ・第三者意見の中にそのことが重要と指摘されたことを受けての言葉と理解できる。
- ・企業がカスタマーファーストという言葉で、顧客主義を語るようになったが、それと同義と考える。

以下略

5. その他

次回以降テーマについて重ねて各位に要請が行われ終了した。

(文責：河口)

議事録送付先(敬称略)：

[部会員]：安藤、井上(真)、井上、岩倉、上原、遠藤(淳)、遠藤(梨)、大泉、大島、岡田(佳)、片方、勝田、加藤、河口、川村、北川、木下、熊本、栗栖、桑山、小池、小松、小松崎、西藤、斉藤、佐久間、櫻井、佐藤、柴柳、瀬名、潜道、高橋、武谷、田村、出口、徳山、永井、那須、西村、野瀬、野田、比賀江、樋口、肥後、菱山、平塚、古谷、古山、前原、増岡、増澤、増淵、松尾、松本、丸山、水島、水野、峰内、宮川、宮澤、山口、山中、山本、横館、吉村、銀山(オブザーバ)

[学会本部]：梅津会長、水尾副会長、高橋前会長、内田事務長

※部会員登録には過不足や齟齬があるかもしれません。お気づきの点ご指摘ください。